

## 新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

### 税金に対する辛口言葉

長岡市立南中学校

二年 佐藤 夏音

自分が買い物をした時に消費税があるために残金が足りずあと一品買えなかったことがあった。本当は百円で買える商品が百八円。小さな額だとそれ程気にならないが千円だと八十円、一万円だと八百円。もっと高額な買い物だとかなりの出費になる。煩わしく思える消費税の他にも所得税や市民税や自動車税などたくさん納税が義務付けられていて、家計に影響を与えていると思う。

しかし、租税について学習する中で、税金は私達の暮らしを支える、なくてはならない大切な財源であることがわかった。例えば、私が受けている義務教育。学校の施設から教科書、授業料等、全てこの税金で賄われている。公立学校の児童・生徒一人当たりの年間教育費負担額は、小学生は約八十六万二千元、中学生は約九十八万四千元。この税金がなければ親が払うことになる。だから、税金というのは生活を支える上でとてもありがたいものだと思う。では、現在の日本における税金の使い道は適正なのだろうか。税金の無駄遣いなど、不適切な会計経理の指摘額は計四千九百七億円と言われている。これには支出が法令違反

にあたる「不当事項」と、経済性や有効性の観点から無駄や改善が評価される「処置要求」がある。不当事項だけで百四十一億四千万円という統計もある。

私はこのような税金の無駄遣いを今本当に困っている人に充ててほしい。例えば、震災被災者への生活保障や高齢者の公的扶助などが挙げられる。復興に直接関係ない事業に予算が使われてしまったニュースを見て被災者は心を傷めているだろう。少ない年金に生活苦の高齢者も数えきれない程いるだろう。

無駄な道路や外務省の接待用ワイン、居眠り議員達への給料を生活困難者に回せたら自殺者も減り、治安の良い国ができると思う。

これから消費税が十パーセントになると言われている。その増税を無駄にせず、より多くのことに役立て誰もが平等に生きられる日本を築いてほしい。

国会議員は、私達のお金で食べていけているのだから立場をわきまえて国のために精一杯働いてもらいたい。

日本国民も国会議員に任せっきりでなくきちんと声を挙げていく必要があると思う。

そのためには国会が国民にわかりやすく、税金の使い道を伝えるべきである。

これからやってくる超高齢化社会。その時ちようど働き手となっている私達。誰もが豊かで安心した暮らしができるよう、税金のあり方を今一度見直す必要があるのではないだろうか。

